

	用語	解説	出典・参考資料
あ行	Iターン	都心部で生まれ育った人が、地方の企業に転職し移住すること、または直線的に都会から地方へ転居すること。	コトバンク ビジネス用語集の解説
	東屋	眺望、休憩などの目的で庭園などに設けた四方の柱と屋根だけの休息所	
	畦 (アゼ)	水田と水田との間に土を盛り上げてつくった小さな堤。水をためるとともに、境界・通路とする。	goo 国語辞典
	アプリケーションソフト	コンピューターやスマートフォン上で作動する、ある特定の目的のために設計されたソフトウェア。「応用ソフト」とも呼ばれ、どのソフトウェアにも共通する基本的な機能をまとめたOS (基本ソフト) に、ユーザが必要とするものを組み込んで利用する。	IT用語辞典 e-Words <a href="http://e-words.jp/">http://e-words.jp/</a>
	EV充電ステーション	EV (Electric Vehicle) は電気自動車のこと。電気自動車の充電に用いる地上設置型の充電施設。	
	ウォームシェア	環境省が推進する節電・地球温暖化防止のための取組のひとつ。家庭内で暖房する部屋を決めてそこに集まるようにしたり、各家庭で暖房を使用する代わりに、図書館や商業施設など暖房設備のある共有スペースの利用を呼びかけたりするもの。	goo 国語辞典
	オートキャンプ場	キャンプする場所まで車を乗り入れることができるキャンプ場。	
	オーナーシェフ	料理人であるだけでなく、店の経営者でもあること。	
か行	オンデマンド交通	利用者が電話などで乗車を予約し、乗り場や行き先はエリア内なら希望できる。利用者がいなければ走る必要がなく、小型車で済むことから、経費削減やバスが走れない狭い道でも運行ができる。タクシーのような希望時間の乗車が必ずしも可能ではなく、乗り合いとなるため、すぐに目的地までいけないこともある。	コトバンク (朝日新聞掲載「キーワード」の解説)
	釜炊場	主として銅、鉄、アルミニウムなどの金属製の道具で、飯を炊いたり湯を沸かしたりする場所。	
	間伐	植林した樹木が生長して混み合った林において、立木の一部を抜き伐り、健全な生長を促進する作業。	
	ギャラリー	絵や彫刻を展示・鑑賞するための通廊や広間	
	クラインガルテン	ドイツ語で「小さな庭」という意味を持つ、滞在型施設がある市民農園。日本では 1990 年に、都市住民に農地を貸し付けることなどを盛り込んだ「市民農園整備促進法」が整備され、大都市近郊で建設が始まった。	コトバンク (朝日新聞掲載「キーワード」の解説)
	クールシェア	環境省が推進するスーパークールビズの取組のひとつ。真夏の昼間に各家庭で冷房を使用する代わりに、図書館や公	goo 国語辞典

	用語	解説	出典・参考資料
		民館、商業施設など冷房設備のある共有スペースの利用を呼びかけるもの。	
	交通弱者	自動車中心の社会において、年少者、要介護者、一部の高齢者や障害者など、自分で運転することができず、自家用の交通手段がないため公共交通機関に頼らざるを得ない人。とくに公共交通機関が整備されていないため、買い物など日常的な移動にも不自由を強いられている人をさす。	コトバンク(日本大百科全書(ニッポニカ)の解説)
	コンペ	コンペティションの略。設計や企画の案を、複数の提案者の競技により求めること。	
さ行	里山情報バンク	千葉県民の貴重な財産である里山を次の世代に引継ぐため、平成15年5月に施行された「千葉県里山の保全、整備及び活用の促進に関する条例」の趣旨に即して、里山活動団体による里山の保全・整備を一層促進するために創設した制度。土地所有者による整備が困難となった森林の情報を県が市町村や森林組合の協力により収集し、里山活動団体に提供することにより、ボランティアによる森林整備を促進する。	千葉県 HP <a href="https://www.pref.chiba.lg.jp/shinrin/satoyamahozen/jouhoubank.html">https://www.pref.chiba.lg.jp/shinrin/satoyamahozen/jouhoubank.html</a>
	市民農園	都市住民が余暇活動として行う作物栽培のための農園。	コトバンク(大辞林第三版)
	循環型社会	環境への負荷を減らすため、自然界から採取する資源をできるだけ少なくし、それを有効に使うことによって、廃棄されるものを最小限に抑える社会。	コトバンク(ASCII.jp デジタル用語辞典の解説)
	食品残渣	食品製造業や販売店、飲食店、家庭等で発生する余剰食品や調理加工くず、食べ残しなど	
	GPS	Global Positioning System(全地球測位システム)の略。人工衛星を利用して自分が地球上のどこにいるのかを正確に割り出すシステム。	IT用語辞典 e-Words <a href="http://e-words.jp/">http://e-words.jp/</a>
	スキーム	計画。企画。体系。枠組み。	コトバンク(デジタル大辞泉の解説)
た行	堆肥化施設	家畜ふんや食品残渣等の有機性廃棄物を堆肥化(微生物の力で発酵・分解することにより安定した状態にすること)する施設のこと。	
	棚畑	山の傾斜面に沿って畑面の配分が階段をなしているもの。	weblio 辞典 <a href="http://www.weblio.jp/">http://www.weblio.jp/</a>
	棚花畑	棚畑に観賞用などの花が植えられているもの。	
	棚田	山の傾斜地につくられた階段状の水田。	コトバンク(朝日新聞掲載「キーワード」の解説)

	用語	解説	出典・参考資料
	地域循環圏	地域で循環可能な資源はなるべく地域で循環させ、それが困難なものについては物質が循環する環を広域化させていき、重層的な地域循環を構築していこうという考え方のこと。平成 20 年度第 2 次循環型社会形成推進基本計画において、地域循環圏の考え方が明記された。	環境省 HP <a href="http://www.env.go.jp/recycle/circul/area_cases.html">http://www.env.go.jp/recycle/circul/area_cases.html</a>
	地域通貨	特定の地域や共同体においてのみ流通する通貨。中央銀行ではなく、市民や NPO などが発行する。 [補説] 日本では、高齢者の送迎や掃除の手伝いなど住民間の助け合い活動に対して支払われ、その地域内の商店で金券として使用できる形態のものが多い。	コトバンク(デジタル大辞泉の解説)
	調整池	集中豪雨などの局地的な出水により、河川等の流下能力を超過する可能性のある洪水を、河川等に入る前に一時的に溜めるための池	
	直売所	地域の農家や農業協同組合等が設置した、地元の農産物等を販売するための施設。	
	ツリーハウス	生きている木を土台(基礎)にして作られた建造物のこと。	日本ツリーハウス協会 <a href="http://www.treehouse.jp/jtn/index.html">http://www.treehouse.jp/jtn/index.html</a>
	DM	ダイレクトメール。顧客から直接、反応を得るために、既定の規則に添って、顧客に情報を郵送する方法。	DBM 用語辞典の解説
	土水路	素掘りの用排水路。	
	どぶろく	米、米麴、水を発酵させ、もろみを濾さない濁り酒のこと	
	トランジット	航空機で目的国に行く途中、給油その他のために一時他国の空港に立ち寄ること。	コトバンク(デジタル大辞泉の解説)
な行	納屋	別棟に設けた物置用の小屋。特に農家で、収穫物・農機具などを納める建物。	コトバンク(大辞林第三版の解説)
は行	バイオトイレ	便槽の中にオガクズなどを詰め込んであり、排泄された糞尿を、オガクズなどととも攪拌して好気性微生物を活発化させ、分解・堆肥化させる。大きくわけて電気ヒーターなどにより高温加熱する方式と加熱しない方式に分類できる。	バイオトイレ「フリー百科事典 ウィキペディア日本語版」、2015 年 7 月 21 日(火)13:00UTC <a href="http://ja.wikipedia.org">http://ja.wikipedia.org</a>
	バリアフリー	原義は「障害・障壁のない」という意味。日常生活や社会生活における物理的、心理的な障害や、情報に関わる障壁などを取り除いていくことをいう。	ASCII.jp デジタル用語辞典の解説
	ビオトープ	生命: バイオ bio と場所: トポス topos の合成語で生物の生息空間のこと。その地域に住むさまざまな生き物が地域	(特非)日本ビオトープ協会 HP

	用語	解説	出典・参考資料
		固有の自然生態系を構築している森林や湖沼、草地 河川、湿地、岩場、砂地などは全てビオトープといえる。	<a href="http://www.biotope.gr.jp/about/">http://www.biotope.gr.jp/about/</a>
	F I T制度	太陽光や風力などの再生可能エネルギーの普及を図るため、電力会社に再エネで発電された電気を一定期間、固定価格で買い取ることを義務づけた制度。	緑の goo
	ベンチャー企業	新技術・新事業を開発し、事業として発足させた企業。	コトバンク(デジタル大辞泉の解説)
ま行	マジックミラー	明るい側を見るときには透けて見えるが、明るい側からは反射のために見えないガラス。	コトバンク(デジタル大辞泉の解説)
	マスコット・シンボル	幸運をもたらすものとして身近に置いて愛玩する小動物や人形など。キャラクター。	
	道の駅	休憩機能のほかに地域の連携機能などもそなえた多機能パーキング。一般道路に設けられた高速道路のパーキングエリアのような施設であるが、駐車場や休憩所、トイレだけでなく、郷土資料館や美術館、物産館なども設置し、周辺の地域情報、観光情報の提供を行う。	コトバンク(ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典の解説)
	木道	湿地帯などに材木を組んで作った歩道。	コトバンク(デジタル大辞泉の解説)
	モチベーション	動機を与えること。動機づけ。	コトバンク(デジタル大辞泉の解説)
	モンドセレクション	消費生活製品の技術的水準を審査する民間団体であり、これらの商品に対して優秀品質賞を授与することをミッションとしている。食品、スピリッツ並びリキュール、ビール、水 ならび ソフトドリンク等のカテゴリーがあり、受賞した商品は優秀品質賞ラベルを表示することができ、販売促進につながると考えられる。	MONDE SELECTION <a href="http://www.monde-selection.com/jp/">http://www.monde-selection.com/jp/</a>
や行	野菜工場	屋内で温度や湿度、光量などを最適な状態にコンピューターで制御して野菜を栽培する施設。四季を通じて一定の価格で安定した供給ができる。また、安全性の高い生産や土地の有効利用などが可能。トマト・イチゴ・葉物を主に栽培。植物工場。	コトバンク(デジタル大辞泉の解説)
	谷津田	谷津にある湿田。 (※谷津とは谷にある湿地を意味する)	コトバンク(大辞林第三版の解説)
	遊休田	活用されずに放置されている水田。	
	Uターン	(転職等において) 都市圏以外の地方などで生まれ育った人が、都市圏での勤務経験を経た後、再び生まれ育った土地に戻って働くこと。	コトバンク(ビジネス用語集の解説)